

平成 22 年度長野県社会教育委員会議 議事概要

日 時：平成 22 年 6 月 8 日（火）

午後 1 時 30 分～午後 4 時 15 分

場 所：議会棟第 1 特別会議室

出席委員 井出進子委員、岡田英恵委員、武田登委員、比田井久壽郎委員、
谷塚光典委員、山田兵治委員

欠席委員 太田美恵子委員、金田照俊委員、香山篤美委員、

県の出席委員

教育委員会

山口利幸教育長

文化財・生涯学習課

花岡隆夫課長、中村明課長補佐兼総務係長、
北島隆英生涯学習係長、山崎千速担当係長、
近藤貴美枝主査、小林潤平主事、
浦野栄一主任指導主事、蟹澤友司指導主事、
小松容指導主事

生涯学習推進センター

中村勝所長

教学指導課 心の支援室

中村和利人権支援係長

奥原由孝指導主事

スポーツ課 体育スポーツ振興係

北村桂一体育スポーツ振興係長

県企画部生活文化課

和田良一指導主事

1 教育長あいさつ

2 自己紹介

【井出進子委員：長野県連合婦人会副会長】

婦人会の活動は非常に多岐に渡っています。一つ一つ述べると多くなりますが、主なことと言えば「男女共同参画社会への実現」「地域環境の保全」と「食の学習」と言うことができます。環境問題に対しては、とてもたくさんのごことを今までしてきました。特に今は「マイバック運動」とか「灯りを消して家族や友達なんかと一緒に花見をしよう」という運動をととても盛んに地域でやっております。少子高齢化の社会を地域でどうやって取り組んでいくか、国際理解と世界平和、子どもが健やかに育つための社会環境作り、人権尊重の精神の高揚、時代を背負う青少年の健全育成とか、本当に挙げればきりがありません。地域によってみんなそれぞれの活動は違いますけれど、主にはこんなような活動をしております。

そして私は今これらの活動と共に村では主任児童委員として、毎日中学校の中間教室の生徒の方、不登校の子ども達との関わりで悩んでいるお母さん達の心のケア、ちょっと重くなるかもしれませんが話を聞いて少しでも、心を和らげるとか、そんなことをしています。中学校に通い始めて、数年前に2年間、今は続けて3年目に入って、毎日中学校に通っております。今こんなことをしております。そして高原野菜を少し作っております。

【岡田英恵委員：長野県PTA連合会副会長】

長野県PTA連合会は、県下の様々な教育関係の諸団体の方々と共に手を取り合わせて子どもの幸せのために、様々な活動を進めております。その中で皆様に大変お世話になること大変に感謝しております。県の連合会ということで県内の16の郡市の連合会が所属をしていただきまして、その方々が理事となり理事会を構成しております。県の連合会の役割としては、郡市のPTA活動を支えていくということが主となります。そんな中ですが、県としても、学校と地域家庭とのパイプ役になろうと様々な活動しております。いろいろ多岐にわたりますので細かいことまで言うことは差し控えさせていただきますが、それぞれの郡市におきまして、地域、地域と学校とのつながりを持つ活動をしています。それぞれの地域で色々あると思います。一昨年、連合会では長野県PTA憲章というものを制定をいたしました。そのPTA憲章は長野県の子ども達を県の親たちはどのように育てていきたいか。そのような共通の願いを持って、活動を進めて参りましょうということを皆様にご提案したものでございます。その中で大きく謳っていますことは、家庭・学校・地域の連携が、子どもの育成に最も大切としております。「まず家庭を見直そう、私たちは親として、家庭の中で子ども達にしっかり向き合おう」ということを謳っていることが1つ。そして次には学校とのつながりで、「学校にしっかり顔を出そう。親が自らに学校に足を運び、そして先生方と直接話をして子どもをまん中において何をしたらよいか考えていこう」ということが1つです。そして3つ目に「地域の中でしっかり子どもを育てていこう」そのようなことを謳っております。そして地域の行事にしっかりと参加していきましょう。地域の年配者の方々を尊敬し、地域の皆様からいろんなことを学んでいこうと述べています。先ほど教育長の話の中にも伝統文化の継承が難しくなっているとお話がありましたが、そうしたことを継承していくということを親として大切に考えていこうということを謳っております。常にその3つを柱とした憲章を柱に据えまして、様々な場面で会員の皆様にお伝えして、心がけて進めていこうということで、郡市の活動の方にもお願いをしているところでございます。

私は個人的には松本市に在住してありまして、松本市のPTA連合会に所属し、子どもも松本市の学校に通っております。その中で私自身も地域の公民館の中のサークルに所属して「お話の会のサークル」なのですが、そのサークルで地域の子ども達の学校にお話の会ということで授業の時間を一時間いただきまして、各クラス一時間ずつお話をするというようなことで、公民館とのつながり、そして地域と学校とのつながり、そうしたものを実感させていただくという活動をさせていただいております。いろいろと勉

強させていただきまして、県のPTA活動に生かさせていただきます。

【武田登委員：長野県公民館運営協議会顧問】

一つ御礼を申し上げたいと思います。先ほど教育長先生より話のありましたが、昨年出していたいただいた答申についてでございます。これにつきまして公民館関係者は大変勇気をいただいています。本当にありがとうございました。以上でございます。

【比田井久壽郎委員：望月教育プラットフォーム会長】

佐久市に合併をしておりますが、旧望月町を中心として教育プラットフォームを立ち上げて現在6年になります。その会長を務めております。最初に教育プラットフォームという名称でございますけれど、これはいわゆる駅舎です。プラットフォーム含めて鉄道の場合では電車が入ってきて、そして、お客さんに乗せてまた出て行くというふうなことになぞらえて、小学校の1年から6年、あるいは中学・高校の1年から3年という期間の中で入学し、そして卒業していくという形の中で、プラットフォームについては行程化されたものの中で、やはりそこで子ども達のよりよい育ちを願う活動をしながら送り出していくという意味合いがある訳です。

現在、発足して6年、幼稚園から小中学校、そして地域高校であります望月高校まで含めた形で私たちは学校を核とした子どものよりよい育ちを願う活動をしています。特に組織関係については申し上げたような幼稚園から高校まで含めた学校に関する諸団体、もちろん学校が入りますけれども、地域内の団体を総網羅した組織となります。運営関係については、地域約3000戸でありますけれど、その皆さんの世帯から毎年3000円以上の浄財を御寄進願って、運営をしています。

会の活動を立ち上げた背景としては、高校あるいは中学校の特に中学校では立ち上げる前6年前は不登校生がかなり多かった現状がありました。地域高校の望月高校については、県立高校の再編計画に名前が挙がっているという状況にございました。これはなんとしても地域の中で、子ども達のよりよい成長を願っての活動をしていかななくては行かない。地域が関わって行かなくては行かないということから立ち上げをおこないました。当時東大大学院の佐藤学先生のご指導・お考えを取り入れて、「学びの共同体」生徒の皆さんもグループ授業を中心に先生方にご指導願ったらどうかと、あるいは先生方も密室授業という形ではなくて、同じ学年同士、あるいは学校内の先生方が、お互いに授業について話し合う場を持ちながら、大いに共同体的な活動をしていただく方がよいのではないかと。保護者の皆さんあるいは、地域の皆さんも、学校を核にして大いに公開授業を観ていただき、反省も含めた御議論をいただく授業研究会も大いにやっていただく。地域の皆さんも保護者の皆さんも参加願ひ、そういう中で子どもとの距離感を短くして、家庭に帰ってもそうした話題をもとに子どもとの接点持ち、大いに話し合う場・学びの場をつくっていかうというものです。

幸い小中学校において不登校生は激減をしています。当時中学校では30名ほど不登校生がおりましたが、激減をしました。地域高校である望月高校においても、再編の対

象校ということで、同窓会長もしているのですが残念な思いをしていましたが、現在は中途退学者0となりました。3月の入学募集は、定員を第1回で大幅に上回る実績も上げました。そういうことから県立高校の再編対象校から脱却の方向に展開しています。教育プラットフォームの私たちの学びの会につきましても、小学校の先生方が熱心に取り組んでいただいております。全校の先生が公開授業をしていただき、その後講師の先生の指導助言等いただきながら、地域の皆さん保護者の皆さんも参加をしながら大いに学んでいただく。そんな活動をしております。

【山田兵治委員：飯田市ボランティアセンター運営委員、公募委員】

天竜峡のそばに住んでおります。だんだんシーズンとなりますと観光バスがたくさん来ます。ご存じのように山本インターというのができてから大型バスがだいぶ入るようになってですね。市長さんなんか喜んでいらっしゃるんですけど、気がかりなことは名古屋ナンバーが圧倒的に多いということです。元善光寺なんかもそうなんですよ。私は南信州なんですけど視線はどうもあっちの方を向いているんじゃないかと、そんな感じをしています。今日もこっちの北の方にくるのにバスで3時間もかかってえらいところにくるなあと感じを持たせていただきました。

地域づくりということで、今日はお子さんのことの問題もありますが、私は本職がソーシャルワーカーで、福祉関係のことと、飯田市のボランティアセンターの委員をやらせてもらっています。災害関係のボランティアの関わりがあります。はじめは防災という観点だけだったのがだんだんと地域が支え合っていき、県社協さんとか県の支え合いマップと地域の安心・安全の防災マップが一つになりまして、まさにこれは地域づくりの一環となる経過を見えています。そういう中で感じたことは、災害時にボランティアコーディネーターという役割があります。災害時の災害ボランティアセンターが立ち上げられた時に、その避難者の人数とボランティアで支援する人数をつなぐという仕事です。私はそのコーディネーターの会員ですが、実は勉強する中で、災害時のコーディネートより、実は、平常時のコーディネートが求められているのではないかと痛感しています。これは、防災マップにしても支え合いマップにしても実際に防災意識のないところ、安全意識、つまり地域を守ろうという地域に根付いた意識のないところにはいくら普段呼びかけても、講習会とか出てくる方が限られている。私の属する団体は60名ほどですが、現在、幸か不幸か平穏無事なものですから、会に出る人は10人不足という現状です。危機感がないとよく言われます。そういうことは私は平常時のコーディネート、住民の安全意識とか危機意識とかを高揚させる、地域住民と課題を結びつけていくことをしないとだめじゃないかなと考えています。今日はお子さんの問題でいろいろ話し合いがあると思いますが、コーディネーター、コーディネートのお話をしていけたらと思います。

【谷塚光典委員：信州大学教育学部准教授】

私は、教育学部に所属しています。教職を目指す学生あるいは教育に関係する職を目指

す学生と普段接しています。あるいは学校の現場と関わることが多いのですが、この社会教育委員になりまして、2期4年目となり、学校を中心に地域あるいは家庭との関わりを考えることが多くなってきました。

昨年のこの会議以降のことでいいますと、8月にコミュニティ・スクール推進協議会が長野駅前メルパルクでありまして、文科省の方ですとか関係する教育関係者の方が出席していたのですが、コミュニティ・スクールというのは学校運営協議会に保護者あるいは地域の方が参加して、その協議会を通して学校の運営に携わっていくという形態の学校です。どうも長野県は少ないです。そこでこ入れのために長野市でやったようですが、長野がなぜ進まないのかと考えますと、おそらくわざわざ学校運営協議会を立ち上げなくても、比較的地域あるいは保護者が入っていたのかなあ。そういう土壌があったからわざわざコミュニティ・スクールという名前を付けなくて良かったのかなあと感じました。さきほど長野県PTA憲章で、保護者が学校に顔を出しましょうという話がありましたが、昔は普通に当たり前に行っていたことが最近行われなくなってきたので、わざわざ学校運営協議会を立ち上げているのかなあと感じました。昨年10月の長野県生涯学習審議会答申を見ましても、わざわざこれを書かないと今はできないことが多いのかと感じました。今までやってきたことを当たり前に行えるように、県の施策をこうした社会教育委員の話し合いの中で少しでも後押しできるような体制になっていくと良いと感じたのがこの一年でした。

3 議長選出

【谷塚議長】

昨年度に引き続きまして、本日も議長を務めさせていただきます。予定のある委員さんもいるとのことですので、4時までに終わりにしたいと思いますので進行にご協力をお願いします。

先ほどの山口教育長の話にありましたように、生涯学習審議会の答申が出て、その実践をする初年度となっております。実際に答申で出されたことが実態として県の施策に反映されているか、あるいは地域でどれだけ実践されていくか、ということが問われていくかと思えます。今日の全体の説明あるいは、後半の意見交換の中でも、国でいうと事業仕分けがあるのでしょうか、実際に答申で出されたことがどれだけ実践されていくのか、あるいはされていこうとしているのかというところを、また見ていければと思っています。

本日の会議は大きく二つの内容に分かれます。前半は、県の答申や県の社会教育関係事業あるいは社会教育振興事業の補助金についての説明と質疑応答で、後半は、社会教育の推進についての意見交換となります。

4 議事

(1) 長野県生涯学習審議会答申について

【谷塚議長】

長野県生涯学習審議会答申について、文化財・生涯学習課から説明をお願いします。

【花岡課長】文化財・生涯学習課

【谷塚議長】

答申についてご質問ございますか。（特に発言なし）それでは、この後の事業の説明の後にあわせて発言していただければと思います。

（２）平成２２年度社会教育関係事業の概要について

【谷塚議長】

平成２２年度社会教育関係事業の概要について、担当課から説明をお願いしたい。

【花岡課長】文化財・生涯学習課

【中村所長】生涯学習推進センター

【北村係長】スポーツ課

【中村係長】教学指導課心の支援室

【谷塚議長】

昨年度のこの会の委員の皆様の意見が施策にどのように反映されているか、説明いただきます。

【浦野主任指導主事】文化財・生涯学習課

【谷塚議長】

今年度の社会教育関係の事業のご説明がありました。ただいまの説明に関しまして、ご質問がありましたら出してください。特に去年出した意見に対してこういうふうに反映しましたという説明もありました。山田さんからボランティアの養成についてこういうふうに行っているという話がありましたが、いかがでしょうか。

【山田委員】

コーディネーターの役割とコーディネート機能とは別に捉えてほしいです。コーディネーターは人です。その人がコーディネートしていくわけですが、コーディネーターがコーディネートするんじゃなくて、そこに参加する公民館であろうと学校の先生であろうと地域住民であろうと、その目線をもって地域の活力を住民に持ってほしい。そういうコーディネート機能があると思うんです。すべからくコーディネーターだと思いますが、家庭ではお父さんやお母さんがそうですし、そういうところをつなぐってということ、私はボランティアの方でソーシャルネットワークを作っているのですが、つなぐだけじゃなくて、結ぶということこそが大事、それがコーディネート機能だと思っています。それで更に後で述べたいと思いますが、コーディネートの機能というのは、つないで結ぶということだけでなく、地域に根付かせる。つないで結んで根付かせる、その点を今年は期待しております。

【谷塚議長】

中村所長にお尋ねいたしますが、「生涯学習実践講座」を開いた後、受講者の追跡調査と申しますか、その後どう活躍したかということ把握する計画はあるのでしょうか。

【中村生涯学習推進センター所長】

大変重要なポイントでございまして、昨年センターで2回以上受講された方に、アンケート調査を実施しました。調査研究の一環としてやったのですが、その中で「講座を受けて実際に何かをなさったことがありますか。」と問いました。やった方は1割か2割くらいでした。これではいけないということで、今回この生涯学習実践講座を設けるに当たり、実際に課題を持って自分の地区でこれをしようとか、始めたいという方に募集をかけて、5月18日、初回20人でスタートしています。これからそうした方々が中心となって芽が吹いてくれたらいいなあと考えております。

【谷塚議長】

山田委員さん、講座を受けてその後地区に戻りどう活動していくかというのを期待しているとのことだそうです。比田井委員さんから昨年出ていた、学社融合に関して生涯学習フォーラムを4教育事務所で、つまり中央だけでなく全県的に開催していくという話がありました。何かありましたらどうぞ。

【比田井委員】

第5章の25ページの「地域コミュニティの再生」という項の中にも載っていますが、特に今のリーダーの育成と合わせて、地域コミュニティの再生ということから、いわゆる指導者の育成ということが非常に大事なんですね。地域づくりは人づくりということをおっしゃっている。九州大分県あたりでは、非常に活発なんですよね。視察にいった参りましたけれど、大いに勉強しなければいけない。答申も拝見しまして適切で参考になります。ただ公民館活動の中の生涯学習というとらえ方でなくて、特に地域コミュニティ、地域づくりとなると先ほど説明がありましたが、今までは個人の学び、個人の学習に重点が置かれていたけれども、今年から視野を広めた形でいきたいとありました。関係しますが今までは個人の学習としていたものを、地域づくりとか地域課題、地域のテーマとして大いに学習したらどうかとか。それに関しては公民館活動も大切ですけど、行政の最小単位である部落、区、自治会においては、私どもの部落は200戸くらいありますが、同じ旧望月町においては、10数件といういわゆる区もあるわけですね。そういうところにおいては公民館の活動といっても、若い人だけ人選して形だけ出すようなになっています。実際に公民館長さんとお話をしたのですが、現実的には活動にならない。やはり地域問題、地域課題については一定の規模と申しますか単位、それでないとうまく回らないのではないかと思います。それから出席者の関係もありますので、あまり少ないところに講師の先生をお呼びするというわけにも行きませんので、そこでいろいろな議論をするといっても、人員が少なくではどうしようもない、という

ことからどうしてもある一定の規模が必要だなあという感じがいたしております。運営のことにりますが地域問題とか地域課題をとらえる場合には、最小の旧村単位の区長さんとか自治会長さんとかが出席して、皆さんが一緒にないといけません。公民館の現状を聞いたりすると地域問題、地域課題はそちらの皆さんがやることなんだ、我々の公民館は個人の学習や利便のものへの参加が現実の状況なんです。そうしたことから一步脱皮をして、こうした答申をいただいてこれから進めようとのことですが、進めるに当たって、区だとか自治会だとかそういう最小単位の皆さんが指導者、推進役となる指導研修が不可欠と感じております。

【谷塚議長】

公民館の話が出てきましたので、公民館長でもある武田委員さんいかがでしょうか。

【武田委員】

今、公民館の一つの例がだされ、ある程度大きいところでないと、という話がありました。しかし、長野県の公民館は小さな農山村に比較的多くできているのです。歴史を調べてみると、それは不思議で、町部よりも山間僻地の方が公民館は早くできているのです。しかもその地域の人たちの熱意は非常に強く、町部の方の公民館が後からできているのです。これは非常に不思議で、しかも教えられるところがあります。その話をしますと時間ありませんので、ちょっと違う方向から話をします。私のいる伊那市に「伊那西公民館」というのがあります。伊那西公民館というのは実は、伊那公民館の下に分館が23ありますが、その23の分館の中に入っていない公民館です。どういう公民館かといいますと、伊那西小学校の学区に6つの地区があります。地域の中には戸数が10戸しかない地区もあり、そこにも分館があるのです。その他30～80戸位の地区が4つあるのです。その6地区の人たちが昭和26年に、この6つの地域は小さいので、自分たちだけでは分館活動が十分できないということで伊那西小学校に事務局をお願いして、校長先生が公民館長、教頭先生が事務局長、教務の先生に主事をお願いして、伊那西公民館ができたのです。ではどのようにして活動しているのかといいますと、6地区の人たちは自分たちのところは規模も小さいので分館活動が十分できないし、施設も十分ではないので、学校にみんなで集まっていけば、建物も会議室も貸してくれる、校庭も体育館も貸してくれる。そこで集まってやったらどうかという訳です。現在もそれでやっている伊那西公民館は市の条例で決まっている公民館ではないのです。補助金ももらってありません。しかし、活動は活発です。活動としては子ども達と一緒に文化祭と称する総合展をやります。総合展は11月に地域の人たちが体育館へ習字や書道や公民館で勉強したことを飾る。子どもは教室に習字や絵、学級の研究を飾る。そして午後は講演会や歌をやる。地域の人たちの踊りも見せる。子どもと大人と一緒にやるのです。それから運動会を伊那西小学校第何回運動会、伊那西公民館第何回運動会、伊那西保育園第何回運動会とし、この三者の共催です。夏休みに入ると成人式がありますが、成人対象者を地区の人たちが集まって学校で祝う会をやるのです。学校で地区の人たちと先生

で一緒にやるという珍しいことを今もやっているわけです。

その他球技大会のバレーもお母さんやお父さん達が集まってきて一緒に子ども達を見ながらやる。等々いくつかの事業をやっているのですが、小さいから故に6地区6分館が集まってがんばりましょうという珍しい公民館なのです。このことから私は、小さいからとか人口が少ないから公民館活動はできないというのは、少し違うのだということをお伊那西公民館の例から教わっています。ただし、校長先生、教頭先生、特に教頭先生は学校の仕事の他に公民館の仕事があつて大変だと言つておぼしておりました。しかし、まさに学社融合学社連携のすばらしい姿ではないかと感謝しております。このように、交通の便が悪いとか、人が少ないとかということで、公民館活動ができないのではなく、地域の人々の熱意と工夫が大切であるということ教へてもらっています。

【谷塚議長】

今の話に関係しますと、資料3ページに本年度の施策の中で、2つ目の四角です。新しい公民館づくり研究会で、県の公運協と連携して、地域課題、先ほどまさに比田井委員のおっしゃった地域課題に対する公民館の取り組みやこれからの公民館のあり方について研究しますとありますが、このあたりのご説明をお願いします。

【文化財・生涯学習課】

この答申を受けまして、この公民館の活動をどうしていくのか。一番は地域の課題に対して公民館の取り組みのところを、県と公運協で相談して研究会を進めていこうと考えております。

今、比田井委員さんからお話しいただいた点、まさしくそんなところかなあと思っております。答申の中で公民館の項目も上げましたけれども、地域コミュニティの再生ということで、去年香山委員から、長野市の例を挙げていただきながら、地域自治の話、住民のところで課題を解決していくという答申も含めて推進できればと考えております。

【谷塚議長】

県の施策としても、そういう形で、新しい公民館づくりを研究し、その情報発信ということになると思います。

この後、井出委員さん、岡田委員さんに、PTAや婦人会の立場で家庭と学校というところで施策で質問があればと思ったのですけれど、時間が迫ってきましたので全体討論の中で合わせてご質問もしていただくという形でよいでしょうか。

先に進めさせていただきます。ただいま平成22年の社会教育関係の事業の説明がありました。長野県としては、昨年10月に生涯学習審議会答申がありました。日本全体としましても、文部科学省から2008年に教育振興基本計画アクションプランが発表されていて、その基本的方針の一つ目として社会全体で教育の向上に取り組むというのが掲げられていますので、こういう国の施策あるいは県の施策を踏まえまして、各部署

部局が連携しながらそれぞれの事業を進めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 平成22年度社会教育振興事業補助金について

【谷塚議長】

平成22年度社会教育振興事業補助金について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】補助金説明

【谷塚議長】

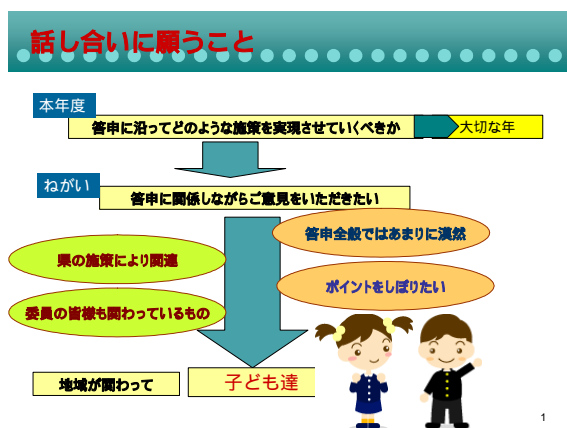
ただ今の説明に対してご質問・ご意見があったら出していただきたいと思います。

長野県視聴覚協議会の事業に関しましては、一般事業として昨年と同内容のものになっています。また、ボーイスカウト・ガールスカウトにつきましては団体としては同じですが、ガールスカウトは昨年は長野県で開催したものへの補助だったのですが、今回は大会派遣のためとなり、ボーイスカウトに関しても昨年は大会開催への補助だったものが、キャンプを開催するための補助金ということで内容は変わっていますが、今年度も支援というご提案がありましたが、よろしいでしょうか。

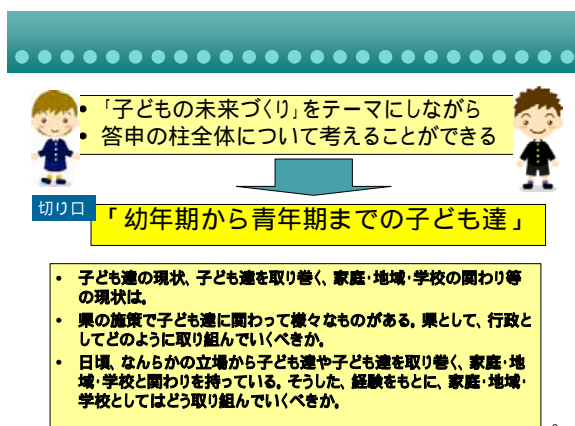
それでは社会教育振興事業補助金につきましては、原案どおりとさせていただきたいと思います。

5 意見交換 社会教育の推進について

「子どもの未来づくり」



【事務局】テーマ説明



【谷塚議長】

提案いただきましたように、答申の3ページのところで、答申の概要を見ながら話をいただければと思います。「子どもの未来づくり」ここに4つの観点がありますが、どこからでもかまいません、「子どもの未来づくり」子ども達の現状を踏まえて地域として学

校としてどのように関わっていけばいいのかについて、お話しいただければと思います。
それでは井出委員さん、岡田委員さん、お願いします。

【岡田委員】

「幼年期から青年期までの子ども達」ということですので、まさに私たちPTAが今親として取り組んでいる課題、それがそのままあるかなあと思っています。今の子ども達の現状というのは、社会情勢の変化から様々な姿が昔とは違って変容していると言われるわけです。自分の子どもを見ていても、周りの子ども達を見ていても、とても心配になることがたくさんあります。一番はコミュニケーション能力が低下しているのではないかと。そういうところはとても感じる場所です。与えられる情報、与えられる映像であるとか音であるとかそういうものに受動的に頭と体を浸しているという環境とがとても多い中で、自ら考え自ら人に関わるというコミュニケーション能力が心配されるところです。

その反面、自分の子どもをはじめ周りの子ども達と接していると、やはり子ども達は昔とはまったく変わらない部分をたくさん持っていると感じています。大人から見ると取るに足らない小さなことに感動する心、感動というのは、驚いたり泣いたり喜んだり怒ったりと感情の動きすべてを感動と呼んでいいと思いますが、感動する心、友達を大切にできる心、そして体を動かすことが少なくなっている今の時代ではありますが、やはり子どもは何でもないことで体を動かして遊ぶというのがとても好きだをということを日々感じる場合があります。高校一年の息子が今でも私の最近見た一番楽しそうな笑顔というものが、「今日友達とめいっぱい鬼ごっこをしてきた」「友達とかくれんぼをしてきた。ああ楽しかった」と友達としてたきたその顔が輝くような子どもの本来のいい顔をしているなと感じた場合があります。そのように子どもが昔ながらの本来の姿が決して変わっていないと私は信じたいと思いますし、大人があきらめないで、その子どもの姿を信じて、それを育てようとしなければいけないと思っています。

そこでまず、大人が自ら様々なことに感動して、それを子どもと共有して行っていくことでつなげていくことが大切ではないかと思っています。今子ども達はなかなか夢を持ってない時代といわれる訳ですが、PTAの活動の中でもこのような話をよく聞きます。「子どもが夢を持ってないのは大人が夢を持ってないからだ」まず大人が夢を持ち未来を見据えてそして子どもと一緒に未来を見ていこうという、まず大人から動こうという、体も心も動かしましょうということを大切に考えていきたいなあと考えております。

【谷塚議長】

ちょっと、踏み込んでお話しをしたいのですが、今大人がという話になりましたけれど、大人が実際に動く場、活動する場となると家庭、学校、あるいはこういった場所になるのでしょうか。

【岡田委員】

一番の基本は家庭だと思います。PTA联合会の方でも共通研究テーマというものを設定して活動を進めているわけですが、そこでもここ3年間「家庭が原点」というようなテーマをすえまして、PTAも活動を進めているように、やはりなによりも家庭というふうに思っております。

しかしやはり様々な社会情勢の変化の中で、家庭だけでは限界がある。家族の形も大変多様化していて、親だけに責任を返していくということには、無理のある時代ではないかなと思っております。コミュニティの中で育っていくということで、学校の中で社会性を身につけていくというのはもちろんで、親も学校の中で共にあって、活動の中でそのような自らの動きということをしていくということも大切だと思いますし、地域と関わることで自らしていくことが大切だと思います。親が1人の参加者としてまず自らが動くという場合と、例えば協力者指導者として関わるという2通りがあると思います。人材の育成ということを、この社会教育委員会の中で色々していただいていますし、人材の育成が大切ということ先ほどから話が出てきているわけですが、親がまず自ら動く中で地域の人材として、PTA活動を通して、親の世代を取り込んでいただきたいなあということを今の話し合いの中で感じました。先ほどからお聞きしている話の中で大切に思うことです。指導者、協力者の育成も大事だとは思いますが、まず発掘するということも大切に考えていただいて、自らは手を挙げないけれど、心ある方、力のある方を発掘していくという視点も取り入れていただけたらうれしいなあと思います。

【谷塚議長】

同様に家庭のこと地域のことにふれていました井出委員さんいかがでしょうか。

【井出委員】

岡田さんと重複するところがあるかもしれませんが、やはり幼児期から青少年期には本当に家庭が一番大事ではないかなと思っております。そうして地域で子どもを育てるということで、婦人会でも朝学校へ行く時とか、帰ってきた時とかは、「おかえり」とか「元気で帰ってきたかい」といった声がけも婦人会の活動の中の一つに入っております。そして、「変なおばさんがなんか声かけた」と思われないうちに、毎日のように子ども達に声をかけながら、地域で子どもを育てるという部分では、婦人会の活動の一つではないかと思っております。そしてまた人材の育成と今岡田さんがおっしゃいましたが、婦人会の中でも、お茶とか縫い物とかお料理とかいろいろなことで指導できる方がたくさんいらっしゃいますので、そんな中から、子ども達との関わりができるといいなあと思っております。たくさんそういう方がいらっしゃいますので、何かの機会にはそういうお話もしていきたいなあと思っております。

また、公民館活動の中で、うちの方の学校では公民館教室なんていうのがありまして、土日を利用して、土日子ども公民館教室で、いろいろ指導できる方が、陶芸の指導をしたり、お料理の指導をしたり、そしてまた山を歩いて小鳥の名前の勉強をしたり、木や草の名前の勉強をしたりということ私たちの地域ではしてまして、土日の子

も達の過ごし方も、少し変わってきたのではないかなあとと思います。

そして、私たちの地域は夏はとても忙しい地域です。皆さん自分の生活を維持するために、いろんな行事に参加することが6月から10月までは大変です。先日も、夏の講座があって、この講座の内容をいろいろ見せていただきましたけれども、夏の講座は参加できないなあと思いました。地域によっていろんなことが違ってきますので、自分で一生懸命勉強したいなら忙しくても、行った方がいいんじゃないかと思いますが、ほんとに私たちは夜中12時から働く地域ですので、いろいろな活動がちょっとできない部分があるのではないかと考えています。あまりいい答えではありませんけれど今思っているところはそんなところですよ。

【谷塚議長】

今お話のありました、季節によって参加できないというのは農作業の関係ですか。

【井出委員】

そうです。それは婦人会活動の中でも夏の参加ということは遠慮してもらいたいということが時々あります。地域が長野県の中でもちょっと違う。忙しい生活の間はとても大変な地域です。

【谷塚議長】

今の話で行政とか県に対してこうしてほしいというようなことはありませんか。

【井出委員】

そうですね長野県全体からすれば、こんな忙しい時によしてくださいとは言えませんが、なるべく多く参加できるということ、どうしても秋から冬の間がいいなあと思っています。

この間、東信地区で9月に金さんという方の講演会があります。ちょっと行きたいなあ、お聞きしたいなあと考えていますが、これからの野菜の出荷の時期でどうなるかわかりません。私たちの地域だけのことでそれ以上お願いもできませんけれど、秋から冬の方がいろんな講座とか研修会には参加しやすいですね。

【谷塚議長】

大学の立場で私も言いますと、9月ですとちょうど大学の授業もないので、出やすい時期だなあと考えてしまいますが、参加者のことを考えるとそんな考慮も検討しなければいけないということは重要な視点だと思います。

それから、事務局から説明がありましたように柱として、現状はどうか、それを踏まえて、地域家庭学校としてはどう取り組んでいくか。それに対して行政はどう支援していくのかという観点がありましたので、そういう形で今私の方で表を埋めつつ提示をしているところです。

今、岡田委員さんからありましたことについてまとめてみました。また、先ほど武田委

員さんから伊那西公民館の話がありました。実際に子どもの現状、地域の現状から小さい地域だけれども、公民館活動へ子ども達が参加する、それが運動会であったり展覧会であったりというのを表に当てはめてみました。先ほど武田委員さんから、行政から何も支援を受けてないけどという話がありましたけれど、もし、行政としてこういうところがあればという何か要望がありましたらお願いします。

【武田委員】

先ほどの伊那西公民館の例は、私個人としては他の分館と同じように補助をやりたいのですがやっていません。まったく自然発生的な公民館で、どこの名簿にも載っていません。長野県の公民館の仲間でもないし、全国の仲間でもない、まったく伊那西小学校区だけでできた、発生した公民館です。勉強させられることが多くて、頭が下がる思いです。そうすると長野県の中には山の中の学校も沢山あるし、小さな地区も沢山あるのですから、伊那西公民館のような形も新しい生き方かと、今教えられ考えているところです。

【谷塚議長】

おそらく、国のいろいろな制度があってそれに乗っかると支援を受けられるんでしょうけれども、今のお話を伺うと、かなり先進的な例ですのであまりにも先進的過ぎてモデル事業にもならないというところでしょうか。ですからこういう取り組みを生涯学習推進センター等で紹介して広がっていくと全国的、全国的にモデル事業化していくのかなあと思いました。

【武田委員】

第4章「子どもの未来づくり」ということで意見を述べさせてもらいますが、答申の中で、19ページからいろいろな方法が書かれており大変良いと思いました。特に私が大事だと思ったのは、体験活動の推進、伝統文化の伝承活動、自然体験活動、農業体験活動、この3つは長野県の自然や環境から考えて大変大事なことだと思います。放課後子ども教室や学校支援とは少し違う感じがしますので、この3つは非常に大事にしていきたいと思います。

伊那市は新宿区と姉妹都市ですが、事業として森林と畑を借りて新宿の子どもが体験活動をしています。そのことから考えますと、地元の長野県でも森林を活かした体験活動をもっと推進していくといいと思います。

その方法として、一つは、今公民館では「子どもが集う公民館」「中高年の男性が集う公民館」この2つをめざしております。かつては、高齢者と女性が集まるのが公民館だと言われていた訳ですが、ここ何年かの間にずいぶん変わって、子どもが来るようになりました。その例が「通学合宿」「夏休みおいで塾」「夏休み体験学習」あるいは「土日の学習体験」「地域探検隊」等という新しい公民館事業に子どもが集まってくるようになりました。これは館長さん、主事さん方の努力だと思っております。ある面で厳し

い状況に公民館がありますが、ありがたいことに今公民館は、新しい時代に応えるようないろいろな事業が試みられるようになりました。小さな分館でも「すがれ追い」「カヌー体験」「イモリを捕る会」等、昔の体験を大事にする方向に向いてきました。大変ありがたいと思っております。そこで特に大事なものは、県下で最も多い分館です。圧倒的に多い分館に光を当て、分館に夏休みの体験学習などをしていただくと、もっと、良いのではないかと思っております。

それからもう一つは、体験を行っていく場所とか機会ですが、全国どこでも長野県でも地域興しが盛んで、どこでも新しい地域興しをすると補助金が支給されます。例えば「ホテルの里を作り」「地域の人形芝居の復活」「古い街道の掘り起こし」などあります。その地域興しに子どもを参加させていただきたいのです。大人だけがやるのではなく、そこに子どもを参加させ体験させてもらいたいのです。ホテルの里など典型的な理科の学習なので、そういう地域興しの事業に子どもを参加させたら、子どもの未来づくりにずいぶん応えるのではないかと思うんです。以上最近の動きで良いなあと思うことと、お願いを申し上げました。

最後に2つお願いがあります。今公民館は少しずつ減ってきています。市町村の中にはいくつかの公民館を1つだけにし中央公民館という形にして、他は地区にお任せしたり、あるいは生涯学習センターに看板を変えていこうという動きがあります。それから館長さんを市町村の課長さん、係長さんの兼務にしている所が随分増えてきました。中には館長さんが図書館長、公民館長、女性室長、教育委員など、いくつも兼務している場合があります。悲しいことにこうした館長さんは役員になっても役員会や会合に出席できないのです。このような状況を何とかしていただきたいと思っております。

最後であります。市町村の社会教育委員の方々が今困っていることは、役割と任務です。県の社会教育の大会等で必ず出るのは「社会教育委員とは何をやらいいんですか」ということです。分科会をやってそれが切実な願いとして出されます。社会教育委員の方の活動の活性化をお願いしたいと思います。これは市町村のレベルだと思えますが、市町村の活動にいろいろあり、会合も4月のはじめと3月の終わりの2回しかやっていないというところが随分あります。何のために社会教育委員があるのか、役割は何なのか具体的なあり方を県の方から折りにふれたたびにお知らせいただくといいのではないかと思います。最後の問題は、この会とは趣旨が違うかもしれませんが、社会教育委員の方の悩みは大変なものだと思いましたので、お願い申し上げました。

【谷塚議長】

特に最後の社会教育委員の役割については、社会教育という月刊誌なんかでもやはり、「社会教育委員は必要なのか」という特集が組まれるくらいですので重要だと思います。活性化している、社会教育委員さんの活躍している市町村ももちろん多くあります。私も社会教育委員の大会で一番動いてないのが県の委員だと言われたこともありますので、紹介できる場を多く持っていけばいいのかなあと思いました。

比田井委員さん、山田委員さんこのあたりのところはいかがでしょう。

【比田井委員】

子どもの未来づくりにつきましては、答申にもいろいろ挙げられていまして、学校支援ボランティアの拡充ですとか、体験活動あるいは自然体験活動、農業体験活動ですとか、家庭教育の支援ですとか、地域の連携強化といいますか協力、開かれた学校づくり、ですね。おおかた網羅されていると思う訳なんです。先ほどPTAの方が未来づくりについては家庭の教育が大事なんだとおっしゃっておられました。まさにその通りですけど、一例としては自然体験ですとか農業体験、その他商業工業などいろいろある訳ですが、家庭の仕事、家業、あるいは家庭内の仕事、お勝手のことも含めてですけども、そういうお手伝いをしっかりと子どもにはさせるということが大事だと考えています。やはりそういうお手伝いをする中で、いかに工夫したらこの仕事は楽にできるのかなあとか、そういうことを発見するのではないかと。いろんなことを体験から学ぶと考えています。

私も望月には先ほど説明もございました望月少年自然の家がございまして、非常に体験学習をしているんですよ。そういうものを活用するということが、大事なのではないかと考えております。

私どものやっている教育プラットフォームの活動については、一番は学校の授業の改善ということが、主眼です。といいますのは、そういう原因というものの1つには、授業が分からない。分からないからおもしろくない。そのうちに隣の生徒をつつくとか、先生の言うことは聞いておらないとかそういう中でしまいには、学校がつまらないから、行かないとこういうことが、原因じゃないかと思えます。そうしたことから学びの共同体ということで、グループ授業、生徒同士グループを作って、先生も基本的な指導はもちろん今まで通りのやり方でやっていただくにしろ、問題を提起しながらグループでしっかりと互いに話し合ってもらって、先生もその授業のために、教材の研究ですとか、いろいろ横の連絡を取っていただく、そういう諸々のことをですね、地域の保護者も含めて、学校の公開授業で学ぶということが主眼で、いろいろな活動をいたしております。

例えば、幼稚園・小学校等においては「早寝早起き朝ご飯運動」もございまして、文部科学省の指導指針であると思えますし、県でもそういうことだと思えます。大事なことなのでそういうことも大いにPRしています。また、食育活動ですとか、子どもの安全支援、それから読み聞かせの会ですとか、そういういろんなものを手がけています。それから「スイッチを切る」運動も行っています。これはパソコンですとかゲームですとか携帯ですとかそういうものに一日中、あるいは学校から帰って、そういうものだけに携わってはいけないということから、外へ出て友達としっかり遊ぶとか、お手伝いをするとかそういうことが大事なんだということを申し上げて、指導しています。中学校においても、挨拶運動、老人のお宅のアルミ缶ですとか持ち出せないお宅のものを伺いして持ってきてあげるとか、親切運動的なこともやっています。学校においても、今の高校の生徒は挨拶もろくにできない。そんなことから挨拶運動なるものを3週間ぐ

らい年2回、同窓会から地域の皆さん総上げ体制でやっています。そうして4～5年になるんですけど、生徒会も非常に奮起をして、自らがやり始めました。登下校の際も挨拶がしっかりできるようになってきました。そういうことから、地域の皆さんも「高校も変わったね」とそういう評判に変わってきます。

自然体験農業体験のいろいろな事業を取り込んでやることについては、やはり指導者が説得力のある指導理念だとかが大事ではないかと感じているところです。そういうことでないただこういうことをやりましょうでは今の時代、そんなことでは人は動きません。そういう点が大事でございますし、指導する役員の皆さん、そういうことを議論してしっかりした理念をお互いに共有しながら、事業を進めることが大事ではないかと思います。

【谷塚議長】

今体験活動の指導者が必要ということで、生涯学習推進センターの講座でもそうですし、大学でも生涯スポーツ課程などが信大でもありますので、そういうところでの大学としての人材育成も必要なかとお話を聞いて感じました。

【山田委員】

時間がありませんので少し箇条的な言い方になるかもしれませんがご勘弁ください。最初に武田さんのおっしゃった社会教育委員の件ですが、主事さんもそうなんですし、もうひとつ学校の先生もそうですが、回転が速すぎるんですよ。教育委員会の担当の方に連携ということでどうなんですかと伺ったのですが、どうも話が進まない。それで例えば学校支援地域本部事業は、私の市ではやっていないんですよ。話を聞いたら「公民館活動が盛んなので、それでやっているんだ。」という公式の場でのお答えでした。なんやかんや言ってもその辺の社会教育委員とか学校の先生とか要になるところの人事に関しては、もう少し住民サイドの目線で物事を進めていただければと感じております。

子どもの未来ということで今子どもが傷ついているということがよく言われる。自尊心がなかなか育まれないということいろいろなとらえ方があると思います。カミソリ事件で手首を切ってしまったとか、いろいろな事件があった訳ですが、いわゆる児童心理学の方のお話を伺うと、やはり自分が傷ついているというところがあるのではないかとのことです。これは自尊心が育ってないということかと思えます。私もいろいろ考えておるんですけど、武田さんの話とここで結びつきます。あらゆる活動において子どもを丸ごと受け止めるっていうことをしていかないといけない。家庭でも公民館活動でも地域活動でも全部そうなんですけれど、これをしていかないと彼らの権利がつぶされるんじゃないかと思えます。ですからいろんな公民館活動にしても学校行事にしても、子ども参加ということを中心としていかないといけない。私は彼らの物言いというか希望をそこである程度カットしてしまうのではないかという気がしています。この丸ごととらえるという考え方は地域を見つめるということが必要な訳で、例えば、「キョロブラ運動」。ブラブラきよろきよろいという意味だと思うのですが、下校時の子どもの安全の

ために地域の住民が参加して行っている見守り活動があります。私の住む飯田市の龍江地区では、キョロブラ運動とっておきまして、地域住民と学校、PTA、そしてまちづくり委員会などが協働して、ボランティア活動として子どもたちの安全を守っている訳です。同じような活動として、この前南信濃の公民館に伺ったら、バス待ち居場所提供活動というのを公民館でやっているんですよ。学校が2校あって、バスが1日上下合わせて2本しかありませんから、下校する子ども達は、バスが来るまで待たなければなりません。ここでは、図書館をその待機場所として活用してまして、やはり地域人・資源等が協働して子ども達を育てていっているわけです。南信濃ってところは、平成17年上村と共に飯田市に合併してしていますが、この両地域の面積を合わせると、飯田市のほぼ半分くらいの面積となります。広い地域ですから、通学もバスでしか考えられない訳ですよ。スクールバスはない。旧上村はありますけれどね。そういうところでの居場所の提供というか活動に関しましても、子どもが主体的に学習し地域に生きていくための場と機会を地域で保証していくことが大切だと思います。つまり、私の住んでいるちきをれいにしますと、まちづくり委員会・安全部会、それに公民館などが具体的に協働して支援し、さらに学校・PTAや地域住民自治組織などもこれに参加していますが、子ども達はその地域全体の取り組みによって支援の対象になっていくことだと思います。小学校の1年生は下校の安全確保ですけど、できれば上級生との集団登下校の問題もあるかとも思いますが、そういう考え方をこれから導入して行って、これをプロデュースしたり、仕掛けを作るのは大変ですが、やっていかなければいけないと思います。特にこの場合プロデューサー1人じゃなくて、チームで考える、これがネットワークにつながると思っています。

答申を拝見しました。社会福祉協議会の位置づけがちょっと弱いなあと思いました。福祉とか環境とかいった言葉はたくさん出いますが、私は福祉畑なので気になりました。社協の地域組織コーディネーター活動、小地域福祉ネットワーク活動ってあるんですけど、これは一番最初に申しあげました地域支え合い活動と関わりがあるんですよ。この辺のものをやはり活用していかないといけないだろう。学校でいえば、学校評議委員会ですね。こういうものがネットワークとして活用していくってことが、私は大事だと思います。これをコーディネートしていくことが行政とかボランティアの代表だとか、学校の先生方とかそういうところで集まってやっていく。そんなところを作っていただければと思います。

【谷塚議長】

山田委員さんが最後にお話しいただいた「子どもが希望を持てる環境でいろいろ参加できる」というのは行政とするとどうでしょうか。場としては公民館だったのですが。

どういう支援が必要になってくるのでしょうか。

【山田委員】

それはやっぱり学校だと私は思っています。基本は学校。先日、近くの校長先生とお話ししたんですが、学校評議員会というものと公民館活動と連絡を取っているんですかと聞くと「ないですよ」とのことでした。これは決定的なんですよ。例えば登下校運動に関して、私の隣の地区の先生と公民館とタイアップしています。そんなのは例外的なものですよ。ほとんどはですね学校の評議員会というのは機能していませんよ。校長先生からお願いして、市教委からお願いするというシステムですからね。これだめなんですよ。公募制でね学校評議員さんにしても、地域の話し合いのいろいろなものにして公募制にしてもっとオープンにしてくという指導性を教育委員会とか期待していったらどうかと思っています。

【谷塚議長】

法律等の改正で、学校におかなければいけないという形で進んできていますけれど、確かにそれが機能しているところ機能していないところ、教育関係の学会でもいい例のところと機能していないところの両方が報告されていますので、そんなところ行政にお願いできればと思います。

ただいまでできたお話を私の方で並べてみました。

協議の柱 「幼年期から青年期までの子ども」

- (1)子ども達の現状。子ども達を取り巻く、家庭・地域・学校の現状はどうか。
- (2)県として、行政として、どのように取り組んでいくべきなのか。
- (3)家庭・地域・学校としてはどう取り組んでいくべきなのか。

	子ども・地域等の現状	子ども・地域等の未来	支える人	支える場所	行政の支援
武 田	小さい地区(伊那西公民館)	自然発生的な、公民館活動への児童の参加、運動会・発表会	館長=校長、 副館長=教頭	小学校・公民館	経費的支援
岡 田	自ら関わるコミュニケーション能力の不足 笑顔は変わっていない	感動する心 友を大切にできる心 体を動かして遊ぶ 子どもが夢を持つ	大人・親から自ら動く	家庭(だけでは限界)+地域	親の世代を取り込めるように
井 出	土日公民館教室に参加	土日の暮らし方 地域に出てきて欲しい 地域と関わる子どもたちに	地域の住人(婦人会)	地域	
井 出	講座に地域・季節(夏)により参加できない	開講日の工夫により、子どもを支援する講座に参加	地域の住人(講師役)	公民館	多くが参加できる時期に開講
武 田	交流・体験活動の不足 伝承文化	体験活動推進のために、子ども(+男性)の集う公民館に 通学合宿など	地域の住人(特に男性)	公民館・分館	特に分館への支援
武 田	地域のことを知らない	地域おこし事業に子どもが参加 ホタルの里		公民館・分館	数の減少と兼任館長の役割

武田	地域の社会教育委員の活動の活性化	地域の社会教育委員が、子どもと活動する役割を	市町村の社会教育委員		社会教育委員の役割の明確化
比田井	家庭内の仕事をしない	お手伝いをする中で仕事の工夫の発見 望月少年自然の家の事業を活用	保護者	家庭	
比田井	授業がわからないから学校がつまらない(望月教育プラットフォーム)	わかる授業への'学びの共同体'(教師も子どもも地域も)	教師・保護者	望月の学校	国の施策の実施(朝ごはん等)
比田井	体験活動の指導者	指導理念を持った指導者・リーダーの育成		生涯学習推進センター、大学等	講座の開設
山田	自尊心が育まれない 自分が傷ついている	子どもを丸ごと受け止める(希望を叶える)環境のもとで、子ども参加	地域の協議会	公民館	
山田	学校評議委員会が機能していない	社協のコーディネート機能の活用、学校評議委員会の機能の活用	社会福祉協議会、学校評議員	社協、学校	協議会活性化支援、学校と連携
山田	社会教育委員、社会教育主事、教諭の異動が短い	地域に関わる社会教育委員、社会教育主事、教諭の人事への配慮			
香山	地域の民話を知らない	清泉女学院短期大学の学生による聞き取り調査と紙芝居	短大生、地域の住人	短大、地域	

これをまとめようとする多岐にわたってまとめにくいところですけど、2つ気がついたところがあります。やはり子どもが地域の活動にどうにか入っていく仕組み。比田井委員から出た、県の施設が望月にもある、そういうところを活用するというのもありました。子どもが特に土日に家にいてゲームをする、パソコンに向かうというのではなく実際に体験活動の場、地域の人と関わる場に出発して行こうという、望月とか阿南ですとか私も関係していますので、主催事業を見ますと地域の方が講師役に来ているんですね。須坂でも地域の人知っている野草の場所があってそこに行って野草狩りをして天ぷらにして食べる。そういう事業がありますので、そういう地域の人材を活用する場に子ども達が出て行くのは重要だと思いました。

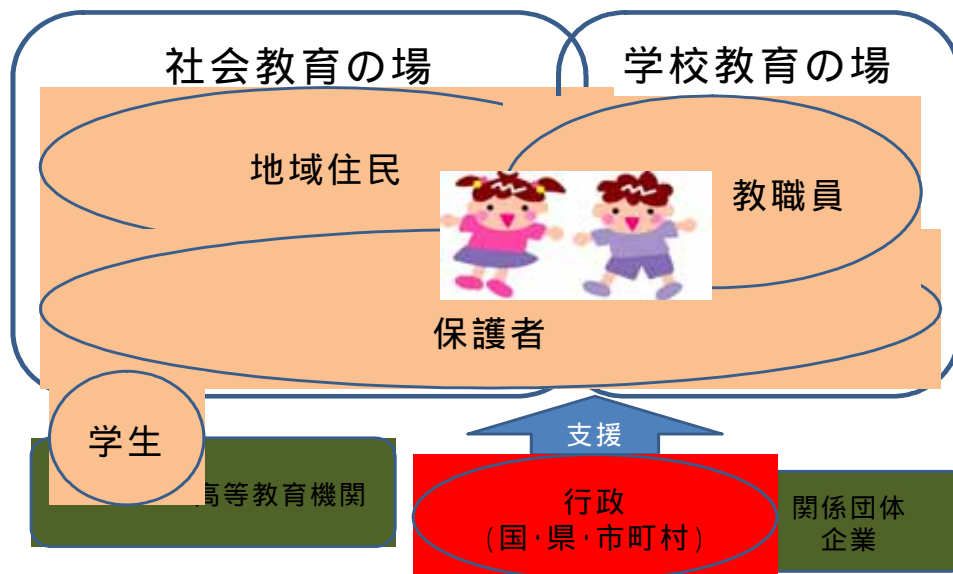
もう一つ思ったことは、一番右側に行政の支援と書きましたが、積極的にやっているところは伊那西公民館もそうですが、とても活発に自然発生的にやっているところはそれでもかまわない。少し後押し、背中をちょっと押してあげるようなこと、それは金銭的なことであったり、信州らんらんネットで人材バンクなどあるのは分かるのですが、そういうところで情報の支援、金銭的な支援、場所の支援、制度上の支援、ネットワークの支援などが少しでもあると、肩を押してもらおうと動き始めるものがきっと多くあるのではないかと思ったところであります。

[意見交換]平成22年度社会教育の推進のあり方

「子どもの未来づくり」

子どもと大人の「共育」の推進
地域の家庭教育支援

豊かな交流・体験活動の推進
学校・家庭・地域の連携協力



こういう図を最初作っていたんですが、やはり子どもというのは学校教育だ、社会教育だ、というのは子どもには意識はないと思うんですね。我々大人の方で型をはめてしまうところがあるんですが、両方行ったりしたりしている子どもがいる。学校教育の場、社会教育の場に地域住民、保護者、教職員。岡田委員さんからもあった保護者についてははじめこの位だったのですがずっと伸ばして奥まで入っていく図に直したんですが、こういう関わりをしていく。あるいは今日ご欠席の香山委員さんからメッセージをいただいたのですが、「NPO 夢空間では、平成21年度から地域に伝わる民話を採集して紙芝居化をして、地域の子供達に伝えていく民話の里づくりに取り組んでいる。これに対して清泉女学院短大の20名が7チームに分かれて松代の民話を集めて、7つの紙芝居を作り、保育園児童館で活用している」とのことです。これはまさに地域の右に書きましたが、高等教育機関の学生が学校あるいは地域に出て行く活動の紹介が香山委員さんからありました。私も実はこの香山委員さんのメッセージがあって確かに信州大の学生も地域に出て行っているなあと感じましたので、一番右の方に高等教育機関学生というものを後から加えたものです。

子どもの未来づくりに関わっては、いろいろな組織、いろいろな人、いろいろな場所が関わっていくものであります。そこでここにいる県の社会教育委員さん、あるいは地域の社会教育委員さん、あるいは委員にはなっていないけれども地域で活躍する住民の方がいますので、そういう方の活動を少しでも後押しできるような施策、もちろんお金がかからない施策もありますので、そういうところを行政あるいは関係団体、企業などの下支えで、平成22年度そして来年度以降も進めていただければと思います。

6 その他

【事務局】

2点お願いしたい。第41回関東甲信越静社会教育研究大会が今年度は11月26日、27日に、東京都杉並区社会教育センターで行われる。委員さんの中から、毎年お一人派遣をしているので選出をお願いしたい。

2点目は、この会から、長野県社会教育委員連絡協議会の理事になっていただいている。慣例に従い、県公民館運営協議会の武田委員様をお願いしたい。

【谷塚議長】

まず、2点目の、長野県社会教育連絡協議会の理事を武田委員をお願いするということがいいでしょうか。

1点目の、関東甲信越静社会教育研究大会の派遣につきましては、この場ではご欠席の方もいらっしゃいますので、事務局に一任としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

第52回全国社会教育研究大会については今年福島郡山で10月27～29日で行われます。県の社会教育委員としての派遣はありませんがもし参加できるようであれば、ご参加いただければと思います。

ここまでで議事については終了いたします。事務局におかれましては、本日の意見提言を受けまして、今後の施策23年度以降の政策立案に向けてに生かしていただければと思います。